

教科		美術		科目	絵画	単位数	3 単位
学年	2 年	科	美術造形デザイン科		専攻・コース	絵画専攻	
教科書					副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標		<p>○技法の習得は絵画を制作するうえで必要不可欠であり、課題を通じて油彩の基礎技法を学び、またその技法の習得から表現技法を身につける。</p> <p>○作品のテーマを自分で設定し、個々の制作に必要な基本的手順を学ぶ。</p> <p>○絵画の構造に対して理解を深め、それを客観的な意見として述べるができるようになる。</p>					
評価の観点		<p>○1年次に習得したデッサン力をベースに各自の視点や思考をもって制作に取り組むことが出来る。</p> <p>○主題を表現することに適した方法や材料を選び、イメージを具現化するための試行錯誤が出来る。</p> <p>○発表・講評会を通して自身の作品と制作過程を省みると同時に、他者の作品から見てとれる特徴や表現技術などの違いを比較・検討し、自己批評することが出来る。</p>					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標		備考	
前	4	○油彩Ⅰ 「自画像」		○自画像表現の多様性を知り、自己を表現することに関心をもって主体的に題材に取り組もうとする。 ○現在の自分を形成するさまざまな要因を探り、自分らしさを構図や画面構成に反映して構想する。			
	5	○油彩Ⅰ 「自画像」		○多様な油彩の技法から自分らしさにつながる方法を見つけ、油彩の特性を生かして表現する。 ○各時代の作家の自画像から表現の工夫と精神性を、自他の自画像からそれぞれの良さを創造的に味わう。			
	6	○油彩Ⅰ 「自画像」 ○油彩Ⅱ 「牛骨をメインとした静物」		○油彩Ⅰで学んだ技術、表現力の向上を目指し、絵画の構造を理解してゆく。 ○多様な素材感、複数で複雑なモチーフ群を油彩の特性を生かして描き分け、作品全体の世界観を形成する構想を練ってゆく。			
期	7	○油彩Ⅱ 「牛骨をメインとした静物」		○基礎的、基本的な知識と技術を活用して、合理的に計画し制作することでその成果を的確に表現する。			
	8	○デッサン力強化講座 (7.8 月月末実施)		○基本的な描写力のレベルアップ。 人物コスチューム(友達)の着彩をとおして人体の構造とムーブマンを理解する。石膏デッサン(胸像)によって、より理解を深める。			
	9	○油彩Ⅱ 「牛骨をメインとした静物」		○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。			

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後	10	○人物ドローイング 「友達」	○人物クロッキーを行い、人体の構造、プロポーション、重心を理解し、体の動きや表情の豊かさを実感する。 ○クロッキーにより線の抑揚やタッチの種類多様性と効果を学んでゆく。 ○量感や均衡、動勢などの造形要素を理解し、効果的に活用する。	
	11	○人物ドローイング 「友達」	○パステルと色画用紙を使用し、新たな素材や表現方法を学習する。 ○視点や色づかいを工夫し、構図や色彩の効果を感じながら描く。	
	12	○人物ドローイング 「友達」	○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
期	1	○テーマ制作 「五感のイメージ」	○自分が決めたテーマに沿って制作することで、ねらいを明確にする。 ○絵画の特徴を利用してさまざまなアイデアを考え、イメージを広げてゆく。 ○表現の工夫やイメージした世界観を感じ取っている。	
	2	○テーマ制作 「五感のイメージ」	○見ること、発見すること、理解することが美術の学びであることを解釈し実践している。 ○固定観念や通俗的なイメージに捉われず、思考と試行を繰り返しながら発想と構想を具現化している。	
	3	○テーマ制作 「五感のイメージ」 ○まとめ	○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。  ○1年間のおさらいを口頭で行うと同時に2年次の課題へとスムーズに進行できる為のレクチャーと準備を実施する。	